

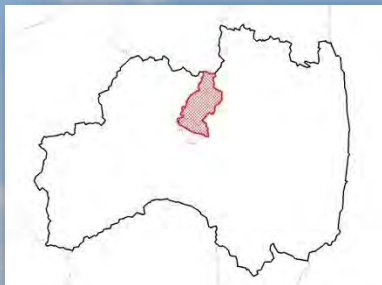
自治体の人材育成と 集落支援について

～市町村専門職員と集落リーダーの育成～

福島県猪苗代町役場農林課
飯田 優貴

福島県 猪苗代町

磐梯山



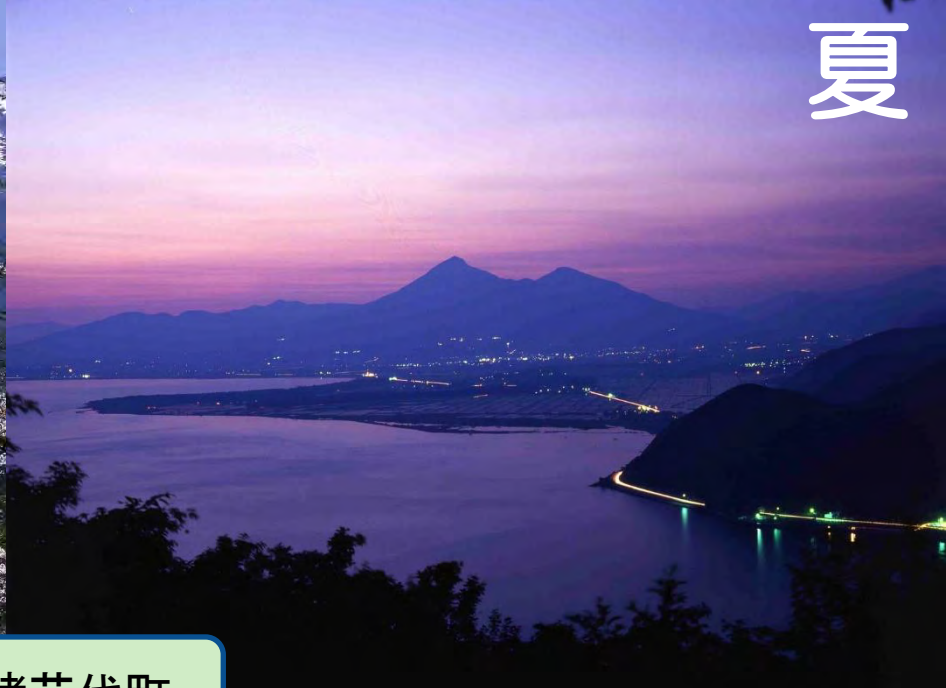
人口・世帯

・人口：13,129人
・世帯：5,333世帯 ※令和5年1月末現在

産業

・観光
・農業(主に米、蕎麦が盛ん)

- ・北に磐梯山、南に猪苗代湖を有する。
- ・町内に活火山（磐梯山・安達太良山・吾妻山）を3つ抱える珍しい自治体
- ・町の木：ナナカマド、町の花：サギソウ、町の鳥：ハクチョウ
- ・隣接市町村：福島市、二本松市、郡山市、会津若松市、磐梯町、北塩原村、山形県米沢市



福島県猪苗代町



猪苗代町内に出没する主な有害鳥獣の種類

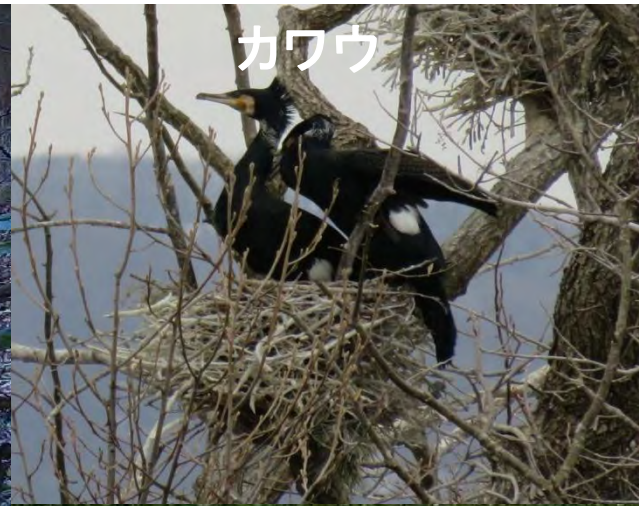
ニホンザル



イノシシ



カワウ



ハクビシン



ニホンジカ

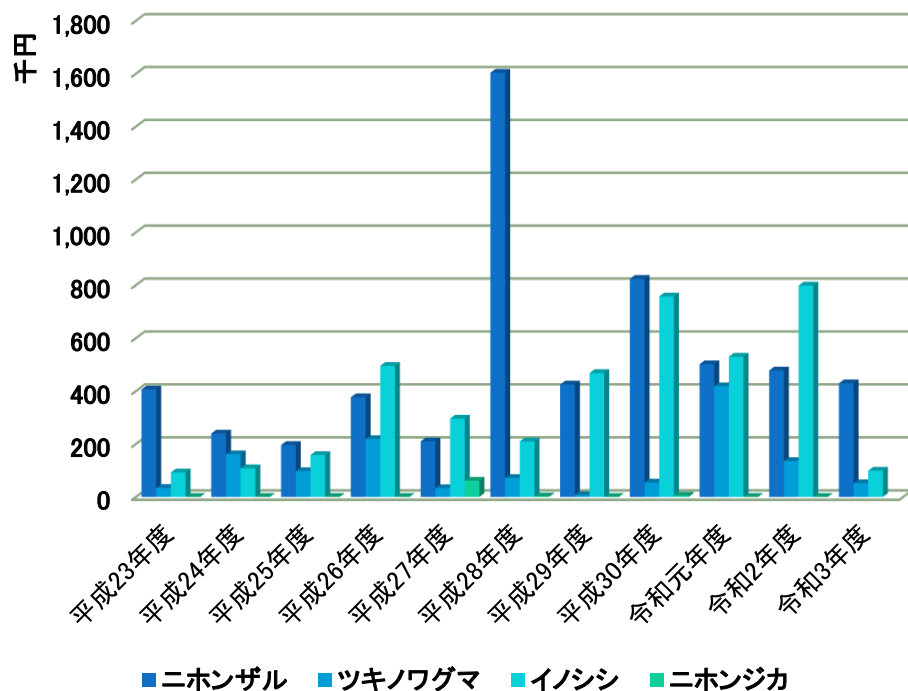


ツキノワグマ

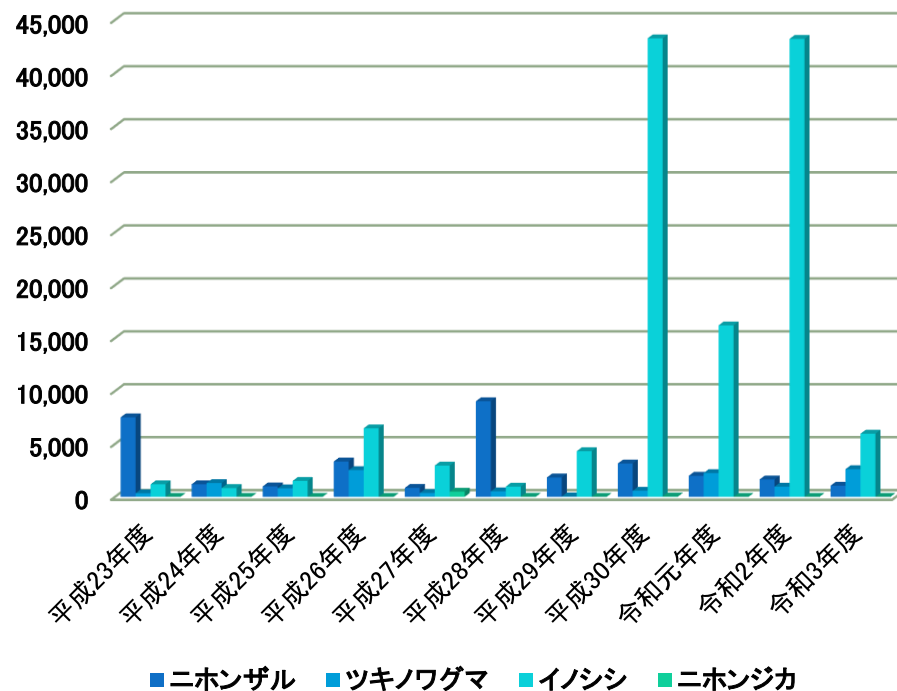


被害金額・面積推移

被害金額年度別推移

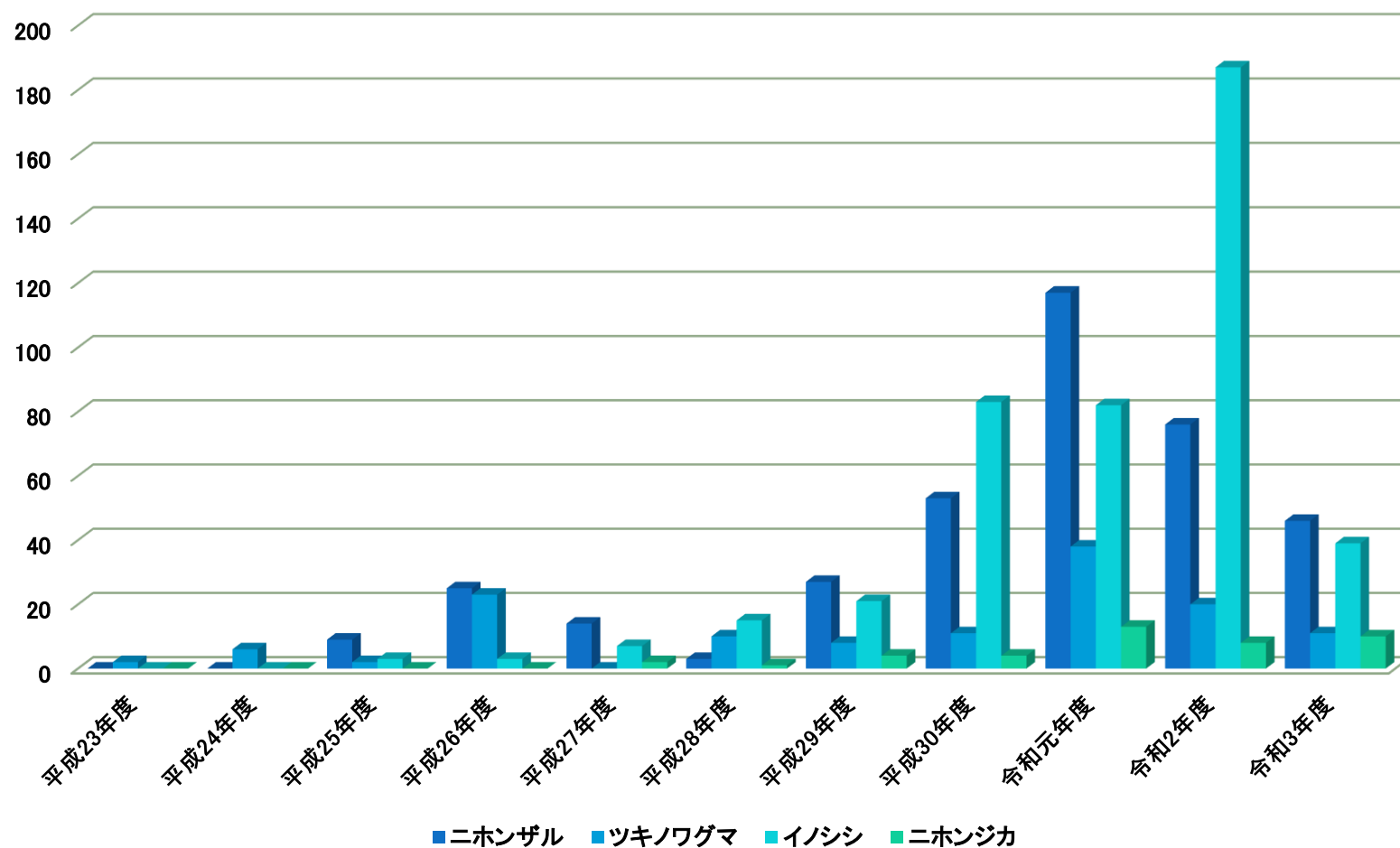


被害面積年度別推移



有害捕獲・個体数調整

捕獲数年度別推移



本サミットのテーマ

人材育成

自己紹介

【氏 名】 飯田 優貴 (いいだ ゆうき)
【生年月日】 昭和59年4月1日生 (38歳)
【出身】 埼玉県桶川市
【趣味】 和太鼓・ドラム



【主な経歴】

- ・平成18年 東京環境工科専門学校 自然環境保全学科 卒業
- ・平成19年～ 新ふくしま農業協同組合(現:ふくしま未来農業協同組合)にて
ニホンザル対策の専門員として勤務(臨時職員)
- ・平成22年～ 猪苗代町役場農林課にて鳥獣被害対策専門職員として勤務(臨時職員)
- ・平成23年～ 猪苗代町役場農林課臨時職員から嘱託員となる
- ・平成28年～ 猪苗代町役場農林課嘱託員から正職員となる

～ 現在に至る

そもそも・・・

鳥獣被害対策専門職員って
どうゆう人なのか？

専門職員とは

★ 農林水産省

農作物野生鳥獣害対策アドバイザー

★ 環境省

鳥獣保護管理プランナー

鳥獣保護管理捕獲コーディネーター

鳥獣保護管理調査コーディネーター

★ 環境省・農林水産省・林野庁が主催する研修を受講し
鳥獣行政の3年以上の実務経験者

★ 大学または大学院において鳥獣保護管理に関する学位を
有する者

専門職員とは

★ 鳥獣管理技術協会

鳥獣管理士



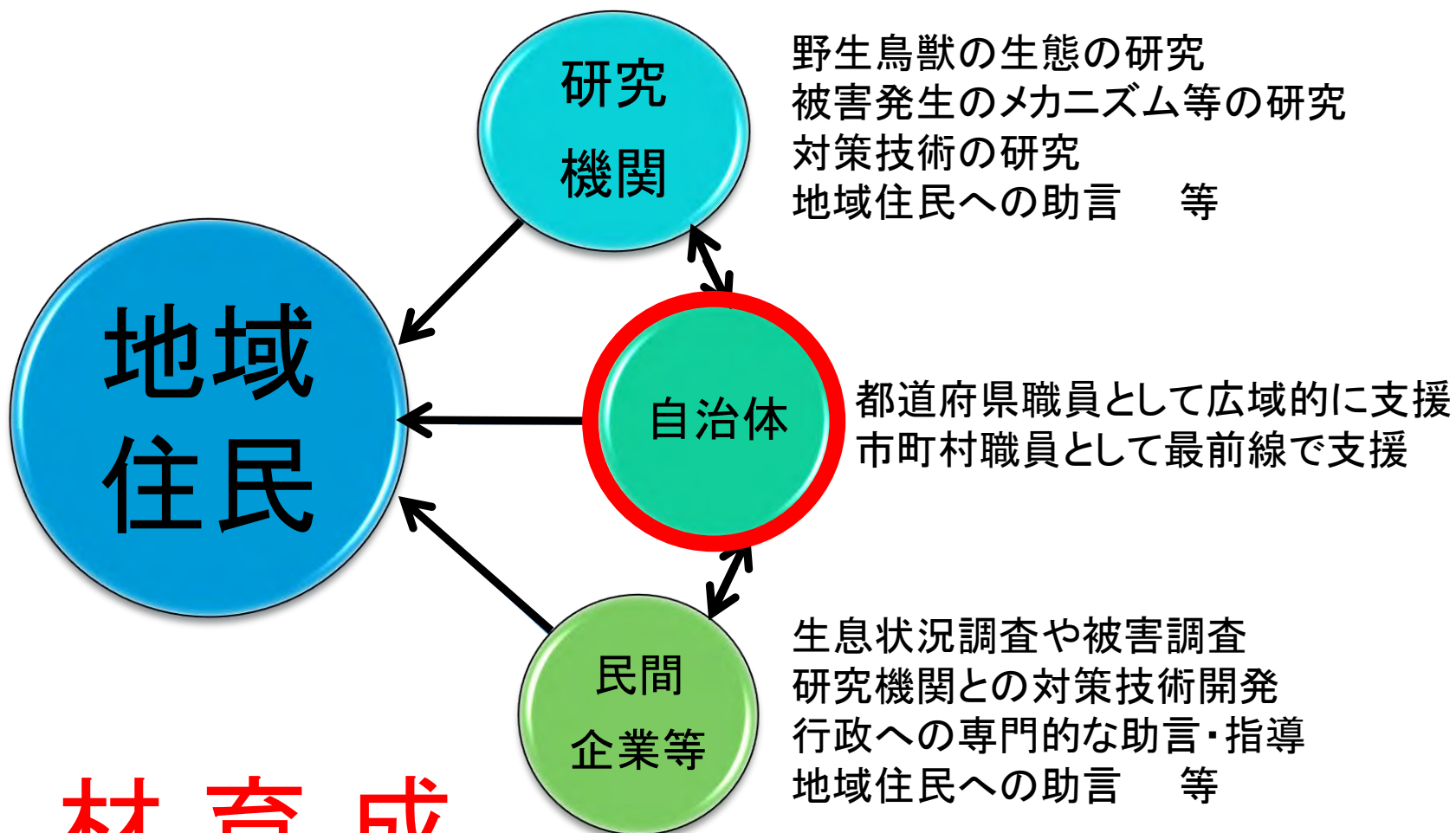
鳥獣保護管理に係る知識と技術を学習できるプログラム
日本で唯一の資格制度

資格がなくても



- ・専門学校等で鳥獣保護管理に関する課程等を卒業または修了している者
- ・鳥獣保護管理の研究を専門的に実施している研究者
- ・各地域で講義、講演を多数実施し鳥獣保護管理に係る指導の経験が豊富な者
- ・国や都道府県等の検討会委員を委嘱されている者

専門職員の活躍の場



人材育成

～自治体(県・市町村)および地域住民～

では！

市町村の専門職員って
どうゆう仕事ができる人？

最前線で鳥獣被害対策と向き合う
すべての関係者を繋ぎ
被害対策の歯車を滑らかに動かす

コーディネーター

3本柱の総合対策（対策の基本的な考え方）



環境管理

（集落内の環境管理）



被害防除対策

（追い払いや柵の設置）



捕獲

（有害捕獲など）

さらには被害を発生させる相手を知ることも必要
【モニタリング調査】

モニタリング調査 ☆専門知識を駆使する



動物行動調査用テレメリー発信器



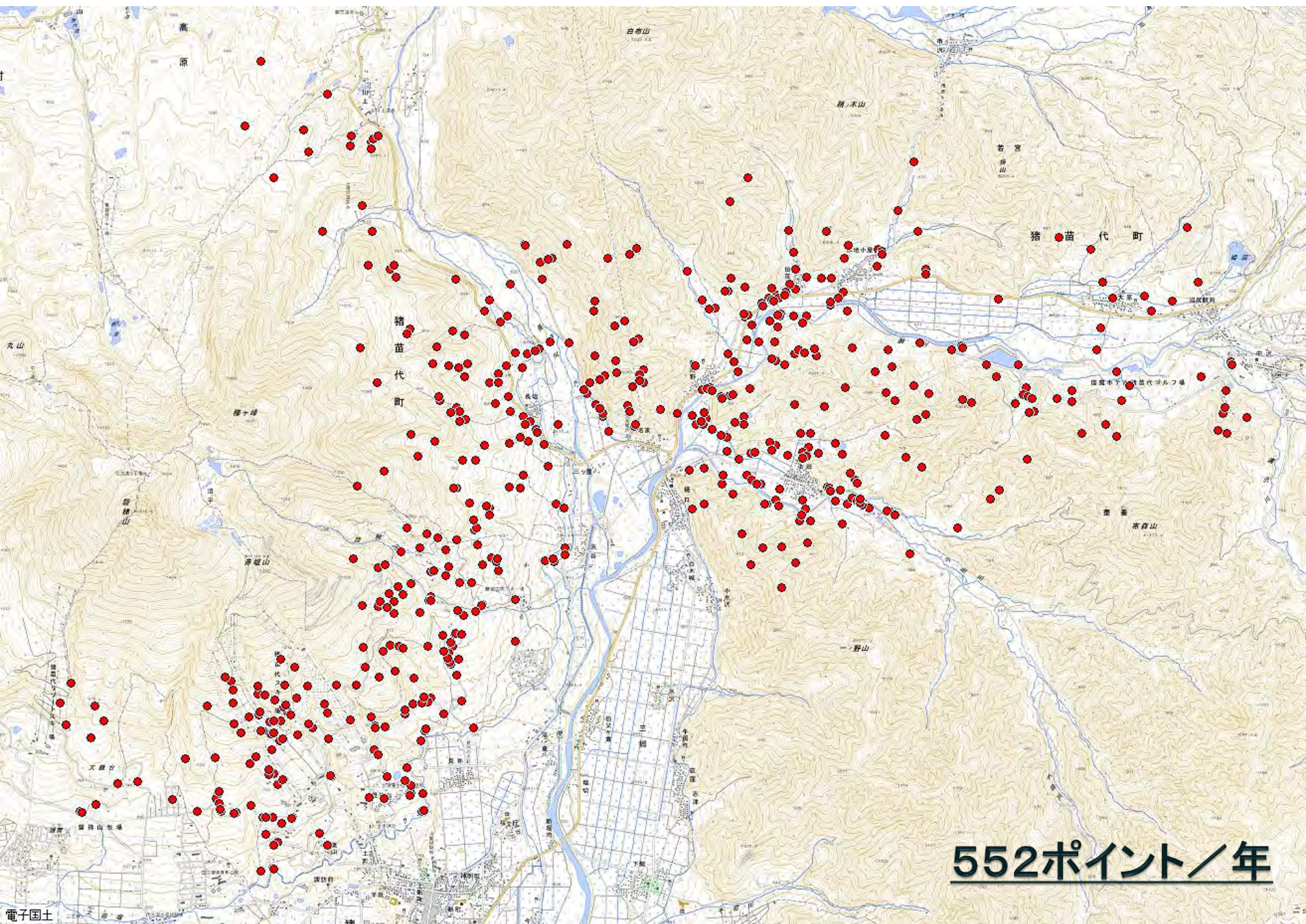
ビーコンタイプ発信器



GPS発信器



テレメリー調査



552ポイント／年

猪苗代町ニホンザル遊動域図

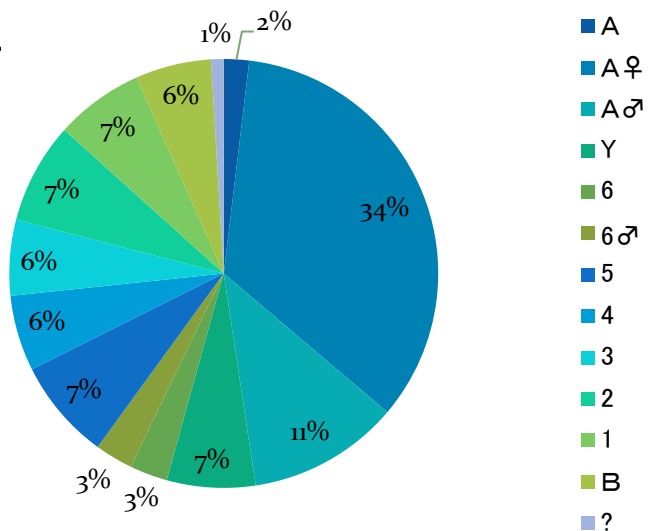
令和4年4月現在

凡例	
	大倉川群
	高森山群
	大島原群
	吾妻群
	吾妻2群
	若宮A群
	若宮B群
	若宮2群
	若宮3群
	酸川群
	川上群
	秋元群
	長瀬群

ニホンザル頭数調査(雌雄・年齢構成)

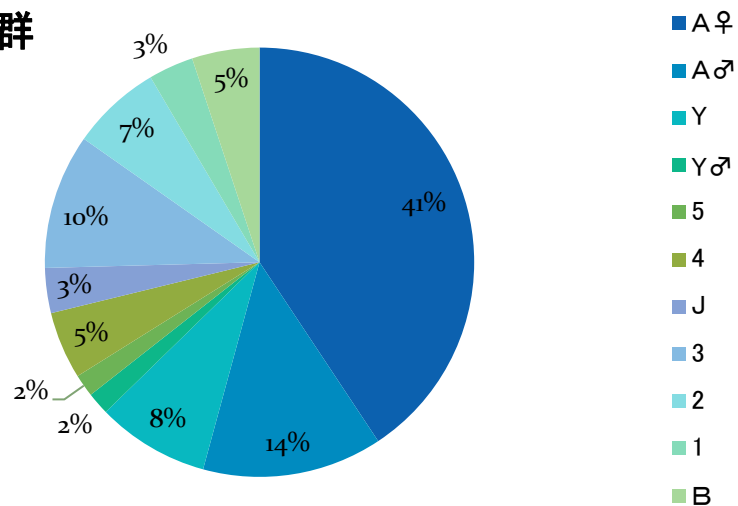
若宮A群

64頭



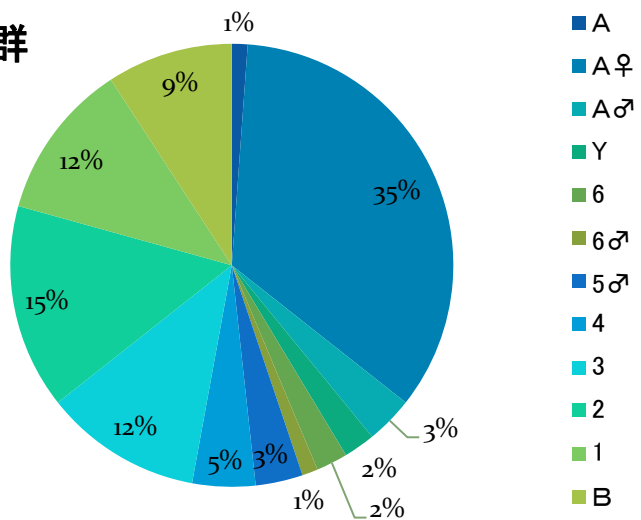
若宮B群

44頭



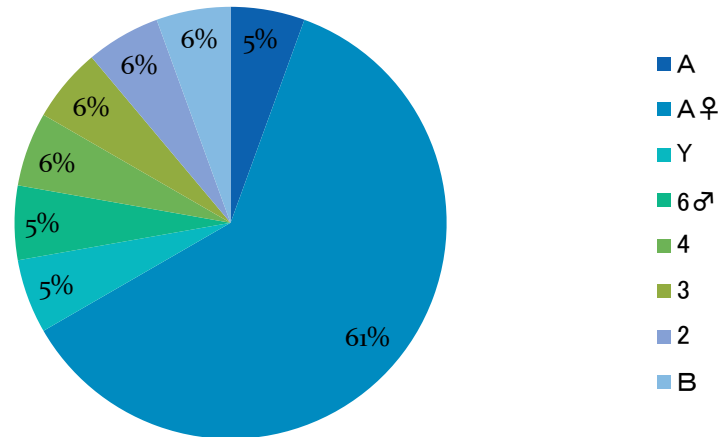
大島原群

65頭



長瀬群

24頭



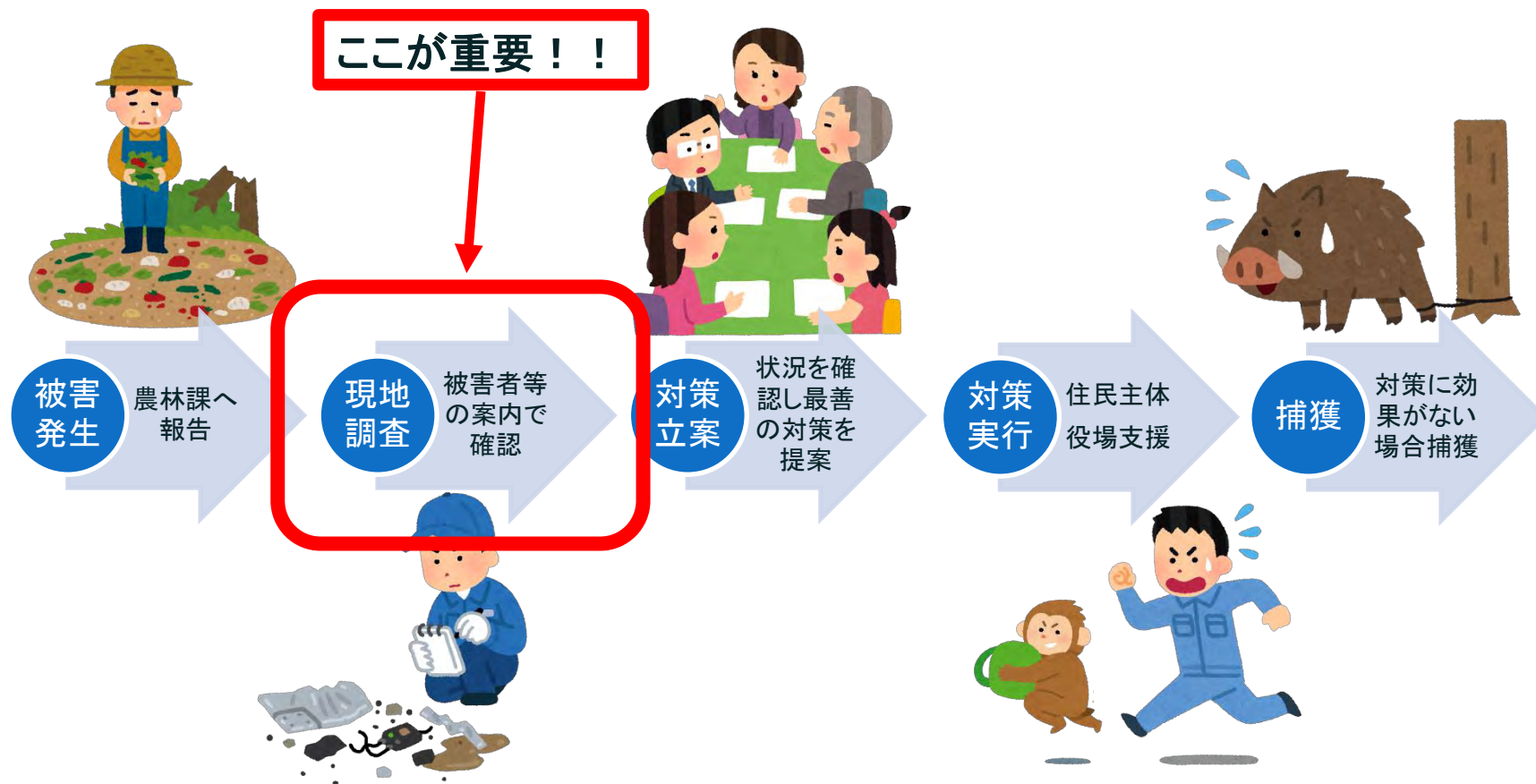
ニホンザル モニタリング調査状況

	群れ名	発信器個体情報(装着時)			装着日	備考	頭数
		雌雄	体重	年齢			
1	大倉川群	♀	11.8kg	10歳	2019.11.15	冬になると蒲谷地区付近に出没	125
2	高森山群	♀	10.2	7歳	2020.07.02	中ノ沢区や達沢区に出没	13
3	大島原群	♀	10.0kg	12歳	2019.12.23	まれに金堀区や市沢区に出没	65
		♀	10.7kg	8歳	2020.12.07		
4	吾妻群	♀	8.3kg	10歳	2021.03.27	秋になると大原区付近に出没	60～70
5	吾妻2群	♀	－	10歳	2021.04.07		33
6	若宮A群	♀	9.2kg	5歳	2020.10.29	分裂後 群れ規模は縮小傾向	64
		♀	9.0kg	12歳	2022.03.30		
7	若宮B群	♀	9.5kg	8歳	2019.12.16	2019.08に若宮A群から分裂	44
8	若宮2群	♀	9.5kg	8歳	2020.02.17	国道115号沿い(吾妻地区)に出没	60～70
9	若宮3群	♀	8.5kg	6歳	2019.12.23	名家区付近に年間通して出没	39
10	酸川群	♀	11.8kg	11歳	2020.02.18	小野川群(北塩原村)と同群れ	63
11	川上群					まれに川上区に出没	70～80
12	秋元群					川上区～中津川溪谷に生息	10～20
13	長瀬群	♀	12.7kg	11歳	2018.08.07	人馴れレベルが高い 人との距離が近い	24

被害対策 ☆地域住民との連携



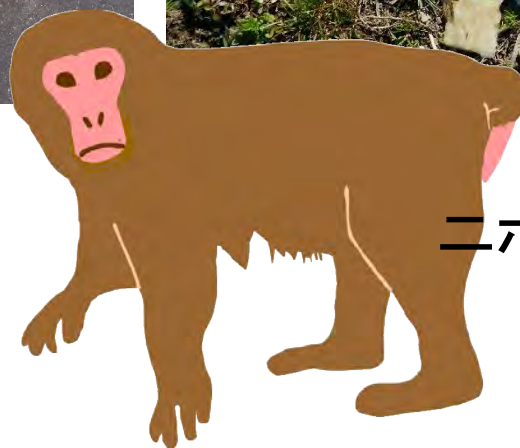
被害対策フロー



被害対策

住民からの出沒・被害報告

これは誰の仕業！？



ニホンザル

被害対策

住民からの出沒・被害報告

これは誰の仕業！？



ツキノワグマ

被害対策

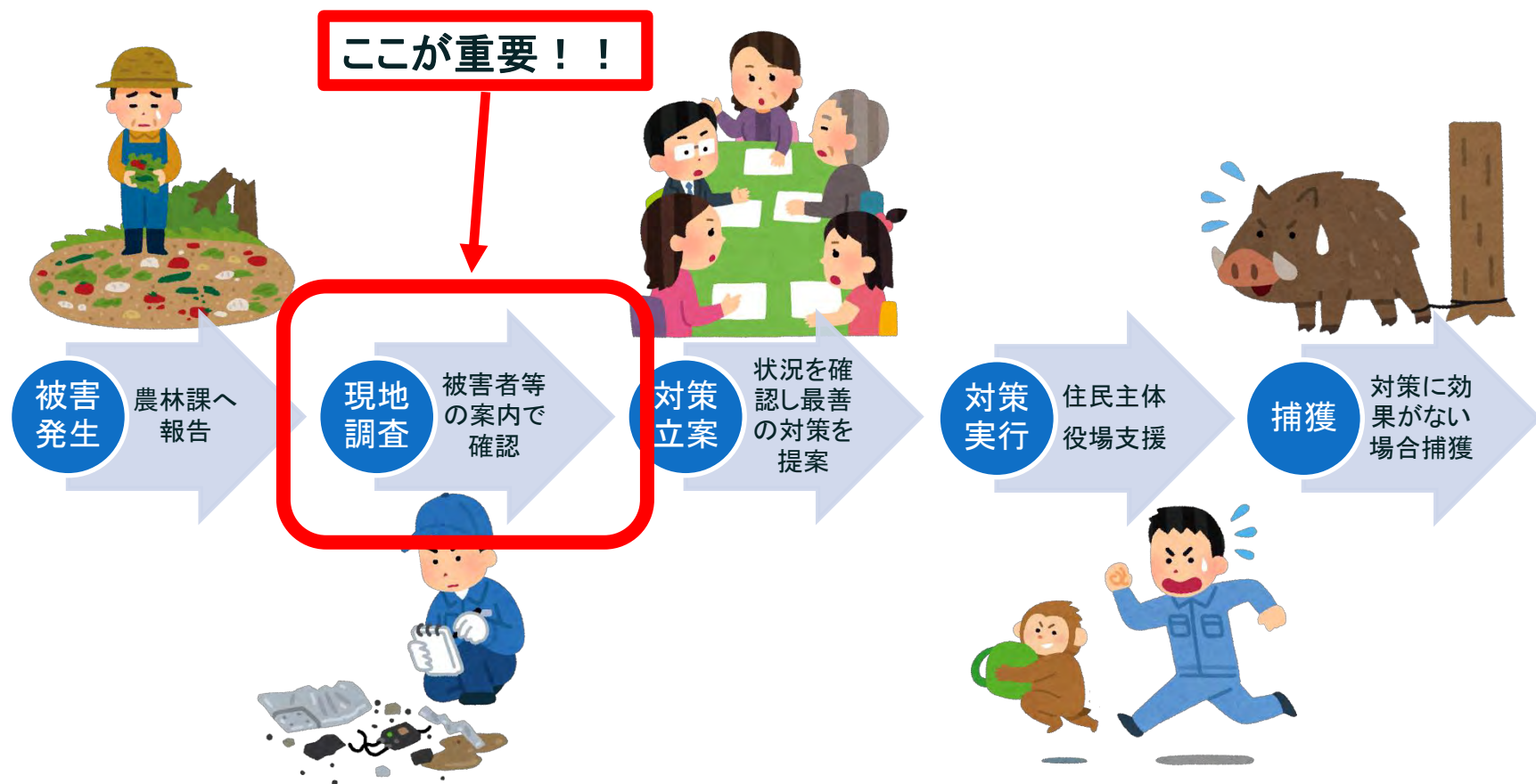
住民からの出沒・被害報告

これは誰の仕業！？

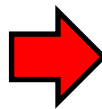


イバシ

被害対策フロー



- ・いかに被害現場に急行できるか
- ・すべての報告に対応できるか
- ・正確な加害獣種の特定、対策の立案ができるか



住民からの信頼

集落研修会



地図上で集落環境診断

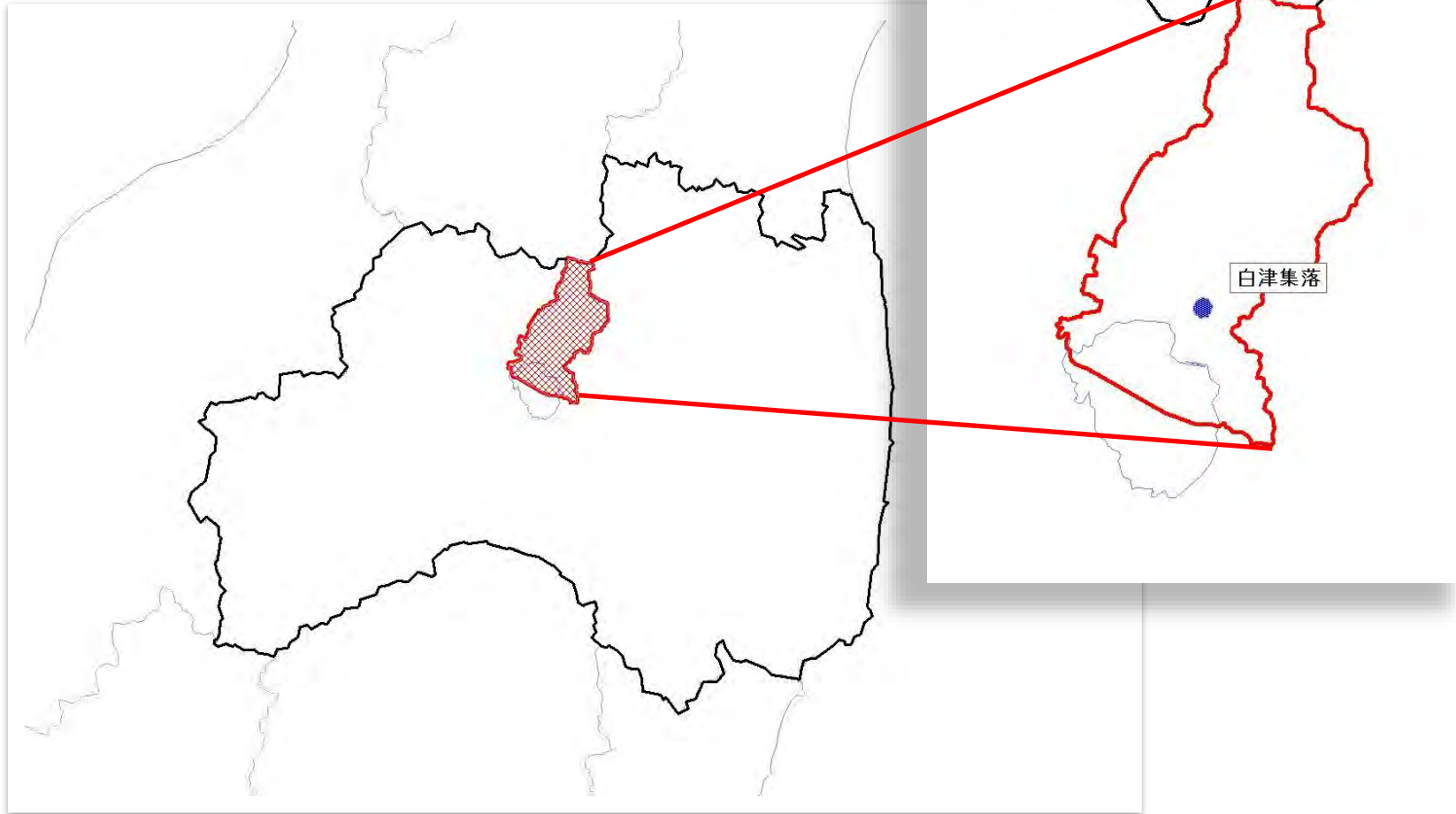


有害鳥獣の生態・行動や
効果のある被害対策の研修

**住民みずからが考える対策の立案
集落独自の鳥獣害対策組織の設立**

集落主体による対策の成功事例

猪苗代町白津区



- ・白津区は猪苗代町南部に位置し、水源豊かで自然があふれている
- ・世帯数は53帯で集落直営の農作物直売所も備え、活気のある集落である

集落主体による対策の成功事例

猪苗代町白津区

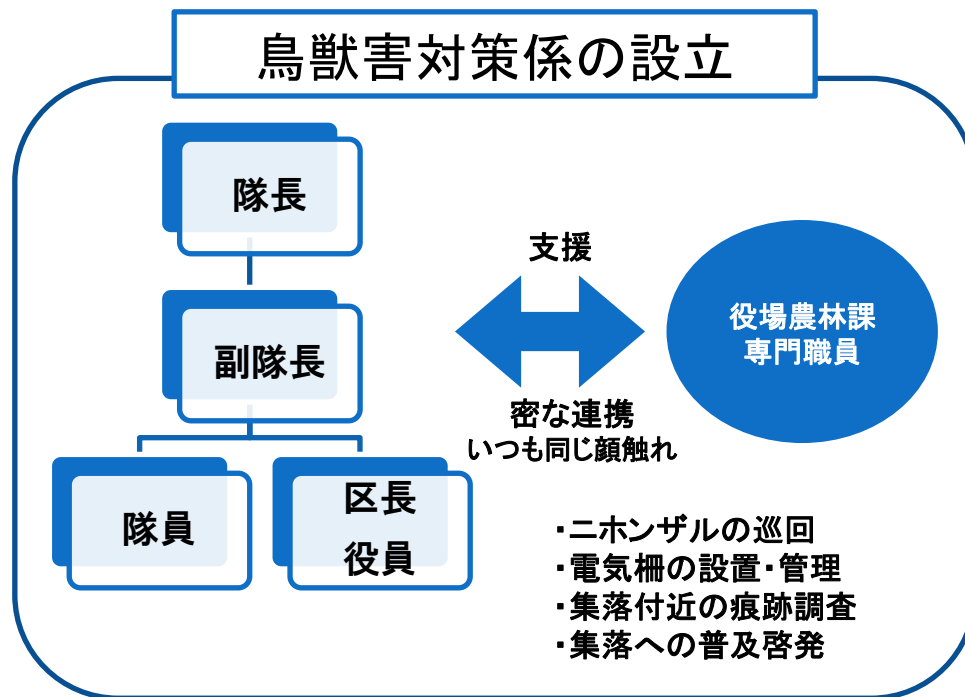
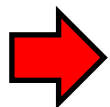


集落主体による対策の成功事例

猪苗代町白津区



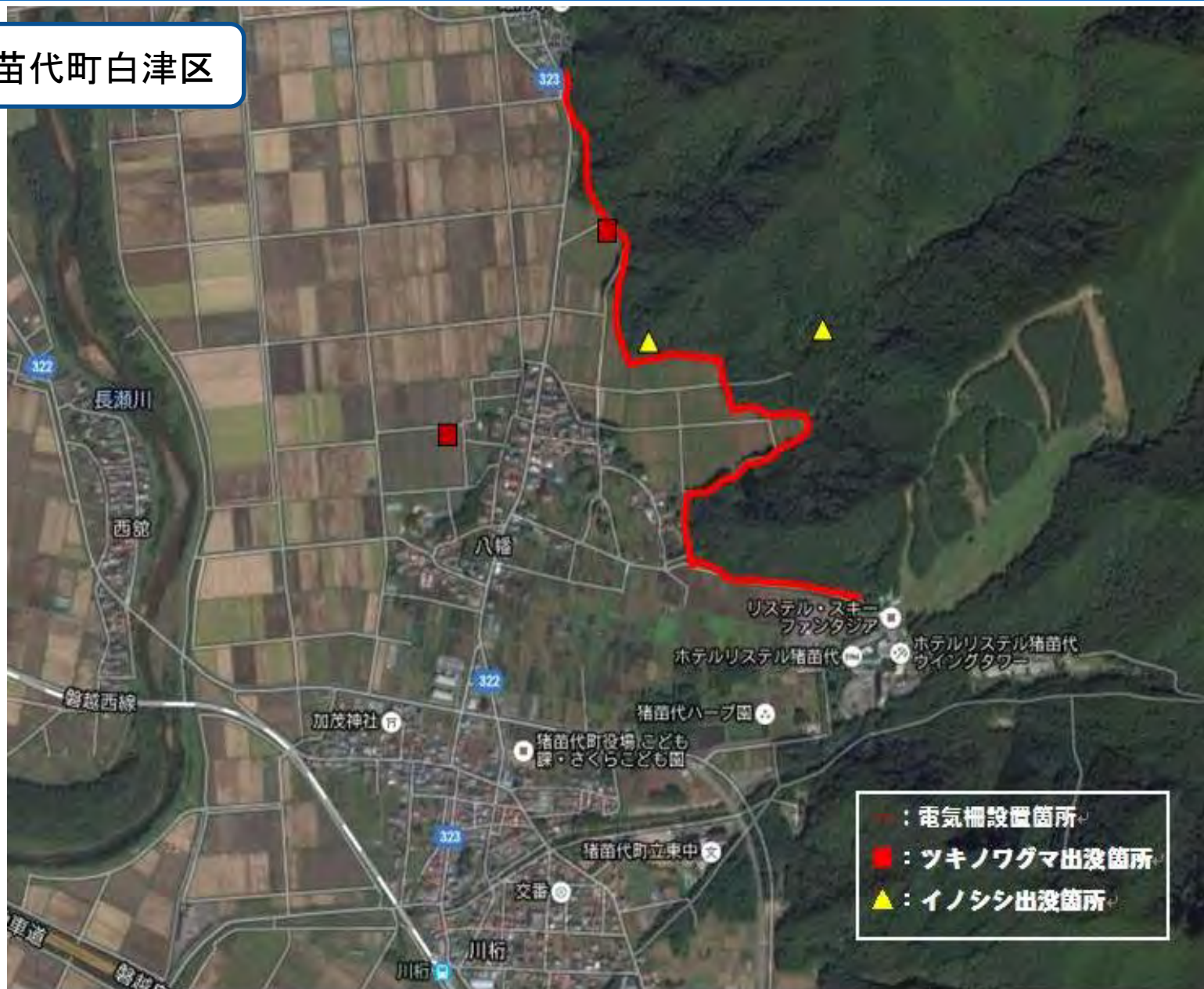
研修会の実施



電気柵の設置
追い払い体制の構築・集落内の環境整備

集落主体による対策の成功事例

猪苗代町白津区

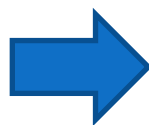


集落主体による対策の成功事例

猪苗代町白津区



平成26年の電気柵設置後
被害はゼロに



令和3年春に
大きな畦畔被害が発生

集落主体による対策の成功事例

電気柵をワイヤーメッシュ柵へバージョンアップ



設置方法の事前相談
補助事業の紹介
設置方法(技術的)・メンテナンスの指導
設置後のアフターケア



侵入防止柵

集落ぐるみの長距離ワイヤーメッシュ柵



有害捕獲・個体数調整 ☆有害鳥獣駆除隊との連携



有害捕獲・個体数調整

町の捕獲業務を担っているのは・・・

有害鳥獣駆除隊

- ・福島県猟友会猪苗代支部長が推薦する者が駆除員となり隊を編成
- ・令和4年度は18名に委嘱
- ・有害捕獲(ツキノワグマ、ハクビシン、カラス等)
- ・個体数調整捕獲(ニホンザル、イノシシ、ニホンジカ、カワウ)
- ・箱わな、くくりわなの設置や緊急的な銃捕獲にも従事

課題も

- ・平均年齢64歳(後継者不足)
- ・若手隊員もいるが仕事があるため緊急的な出動に参加できない



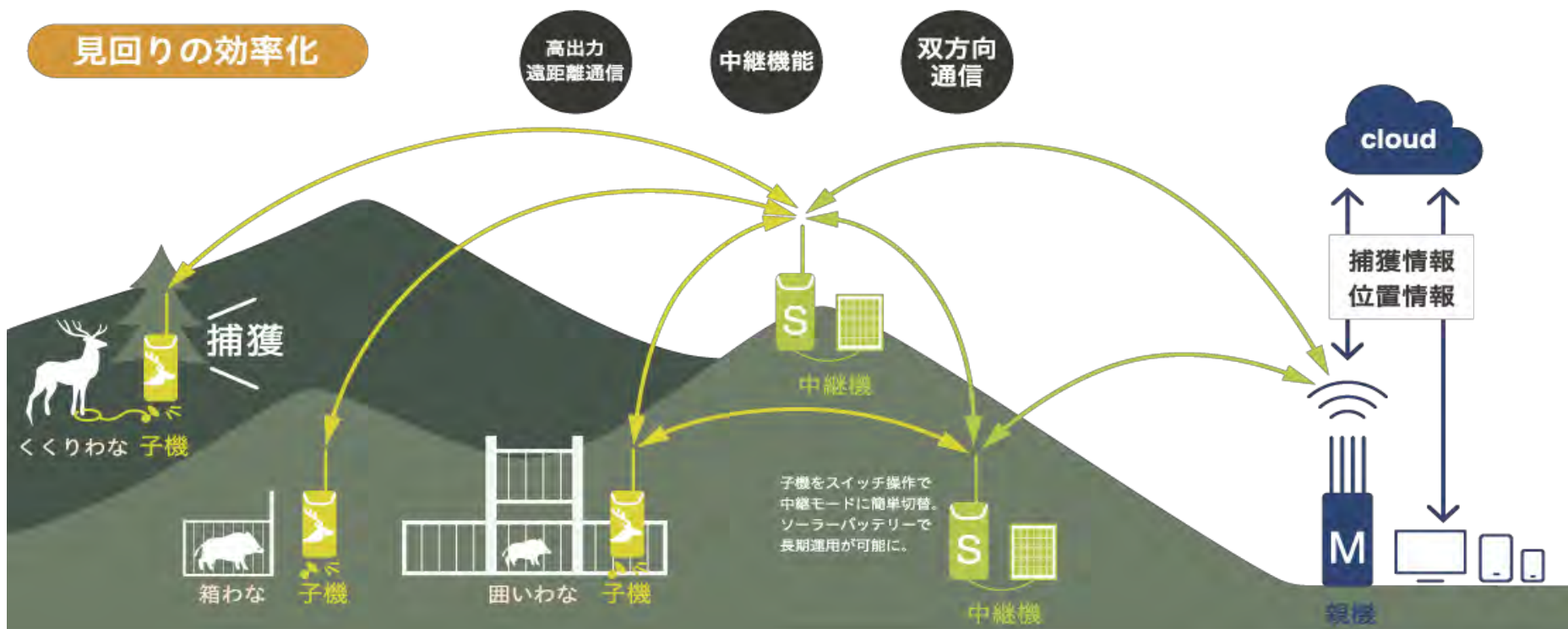
課題に対し

専門職員がバックアップ

- ・散弾銃および空気銃所持者2名
- ・ニホンザルの捕獲については専門職員がメインで実施
(モニタリング調査に基づいた計画的な捕獲)

さらにはICTを駆使した捕獲も⇒

有害捕獲・個体数調整



※（株）フォレストシーHPより

オリワナシステム (株)フォレストシー

電波到達距離 最大200km(高出力遠距離通信 GEO-WAVE)
携帯回線ではないので通信料が無料
導入前やアフターサービスの充実

有害捕獲・個体数調整



ログイン画面

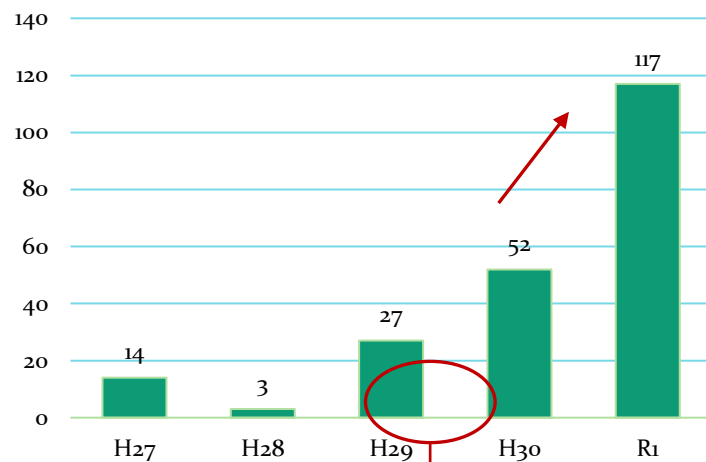


機器管理画面

有害捕獲・個体数調整

導入後の効果

ニホンザル捕獲頭数



システム導入



- ・見回りの省力化
- ・オリ設置台数を増加
- ・見回りづらい場所にオリを設置



捕獲頭数の増加

麻醉銃・麻醉薬の使用



★ ニホンザル等の生息状況・追跡調査

★ くくりわなによる錯誤捕獲

★ ツキノワグマ等の大型獣の市街地迷入

麻醉銃・麻醉薬の使用

くくりわなによる錯誤捕獲



麻酔銃・麻酔薬の使用

(写真提供: 喜多方市役所)



住宅街を徘徊



ツキノワグマの市街地迷入
(福島県喜多方市: 令和3年7月8日)

麻酔銃・麻酔薬の使用

LIVE 喜多方市松山町



住宅街にクマ出没 倉庫内にとどまる
麻酔銃を使って捕獲へ



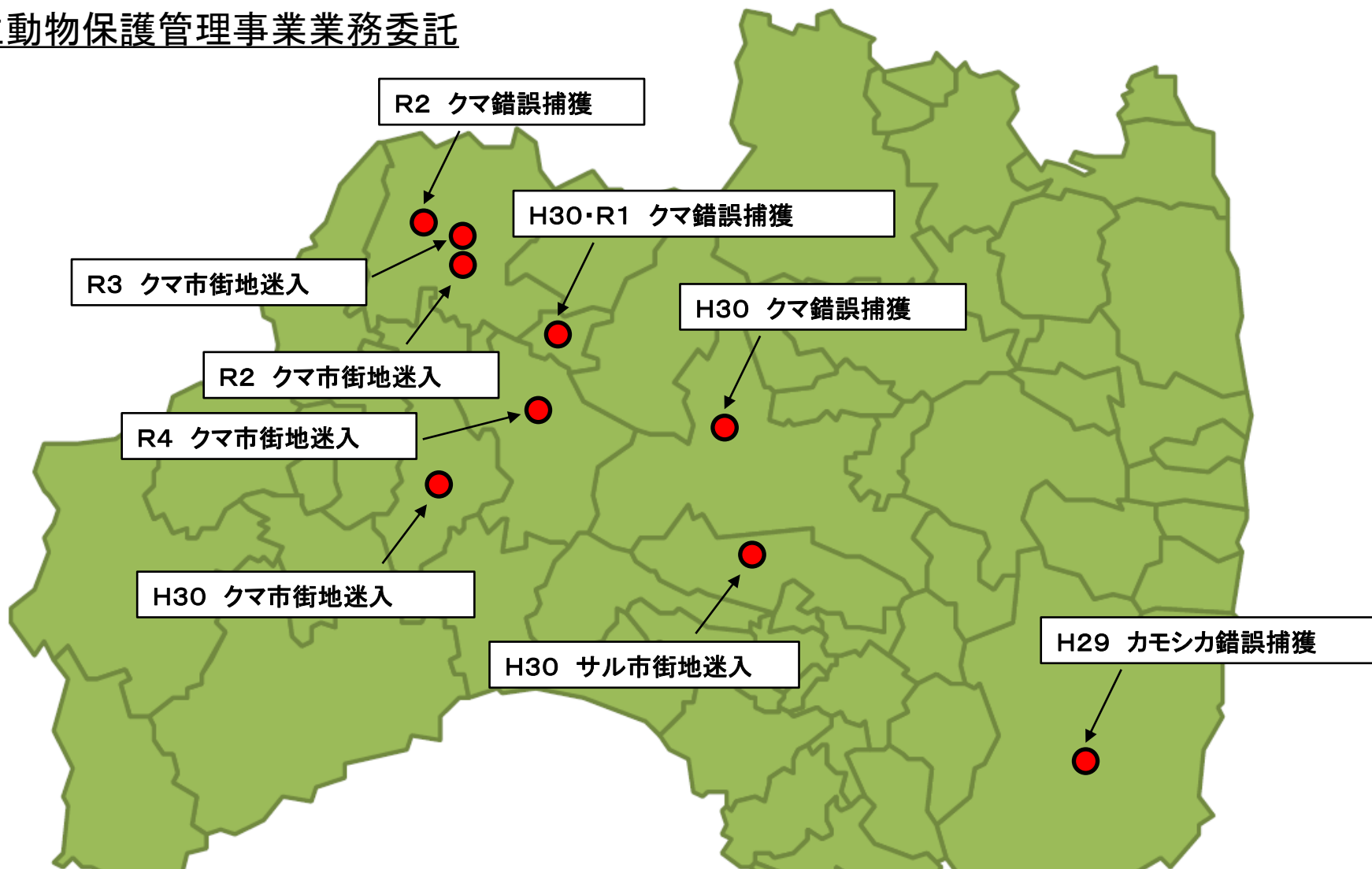
到着から約2時間後
不動化に成功し捕獲

(引用:福島テレビ)



麻醉銃・麻醉薬の使用

野生動物保護管理事業業務委託



県内全域における野生動物の市街地出没や錯誤捕獲について
不動化が可能な場合出動する

専門職員配置後の成果

農作物被害の減少

ニホンザル対策では、詳細なモニタリング調査を行うことにより、群れ管理が可能となったことから、住民主体の効果的な対策を実施することにより、農作物被害は年々減少傾向にある。

（約170万円（平成19年）→約48万円（令和2年））

ツキノワグマ対策では、適正な電気柵設置の普及指導や、緩衝帯整備の実施により、農作物被害は減少傾向にある。

（約200万円（平成19年）→約14万円（令和2年））

集落ぐるみで行う対策の波及

白津区では、専門職員との密な連携を行い、住民主体で対策に取り組み、集落での生活環境被害及び農作物被害はほぼ見られなくなった。

さらに周辺集落へ白津集落の取り組みが波及し、集落独自の対策組織を設立し、対策に取り組む集落が増加している。

平成27年度農林水産省鳥獣被害対策優良活動表彰 (農村振興局長賞 受賞)

農村振興局長賞（団体の部）

住民との信頼関係に基づく連携により、効率的な鳥獣被害対策を推進。地域自らによる被害対策を後押し。

猪苗代町

(町長：前後 公)

主な取組

福島県猪苗代町

平成22年に鳥獣被害対策の専任職員を配置し、巡回等を通じて町内の住民の信頼を得ることで、住民と行政が連携した効果的な鳥獣被害対策の取組が実現。

ニホンザルやツキノワグマをはじめとした加害獣をラジオテレメトリー調査により監視することで、群れの位置や個体の移動状況を把握するとともに、巡回により得られた群れの位置状況や出没、被害状況等の情報をメールマガジンで提供。

(平成27年11月：159名 メールマガジン登録者数)

住民自らの判断で適切に鳥獣に対応することが可能な環境を整えるとともに、捕獲隊による効率的な駆除にも活かされる。

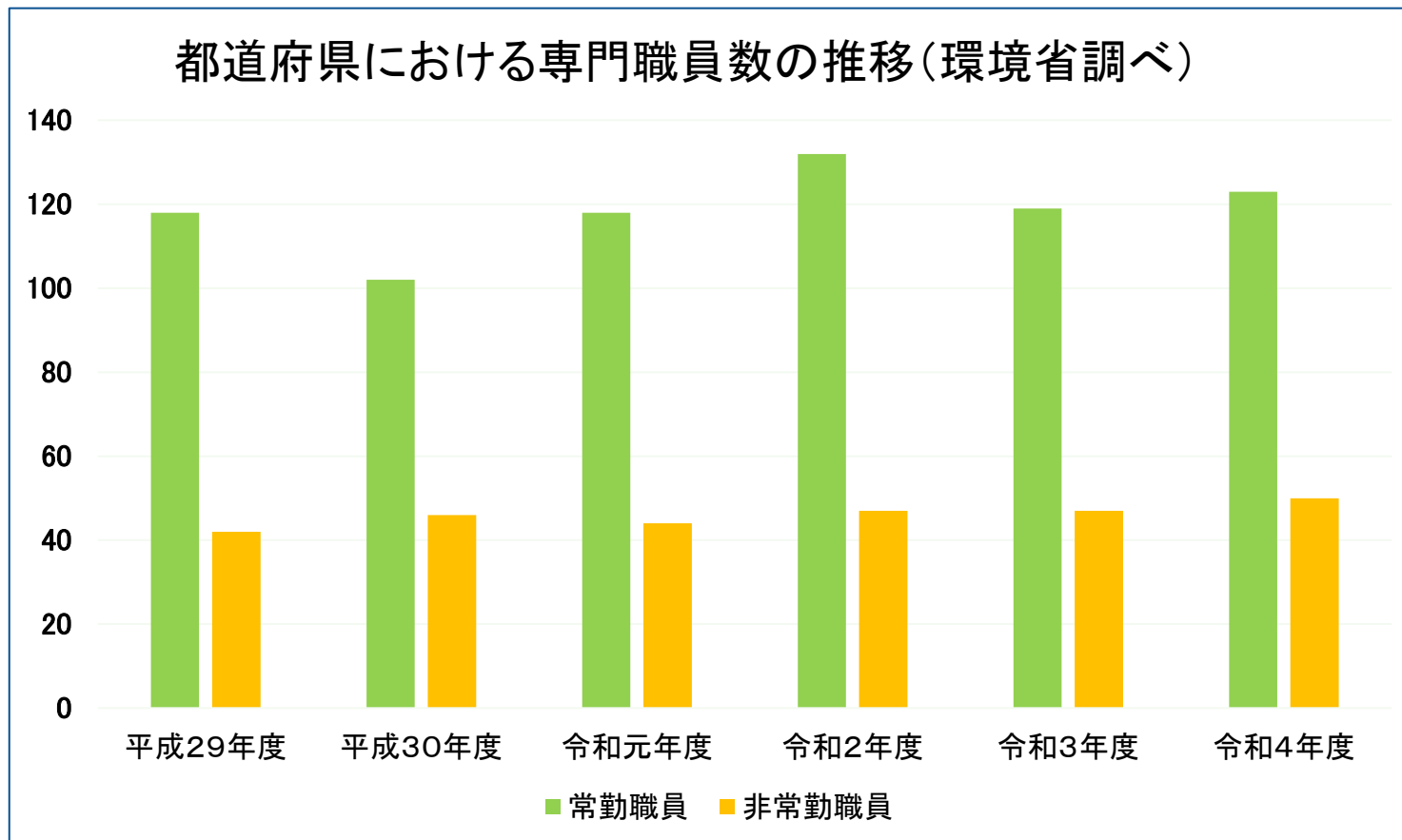
地域自らによる対策の推進を図るため、地域独自の対策組織の設立を目指し、研修会の開催や助言指導も積極的に実施。町内には独自の対策組織の取組により被害を撲滅する集落も現れている。

(平成19年：170万円→26年：30万円 町のニホンザル被害金額)

鳥獣被害の問題を抱える地域を地方行政が支援する取組のモデルとして評価される。

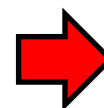


都道府県における専門職員の配置状況



専門的知見を有する職員を配置している都道府県数 37都道府県

1都道府県当たりの専門的知見を有する職員の平均数 3.7人

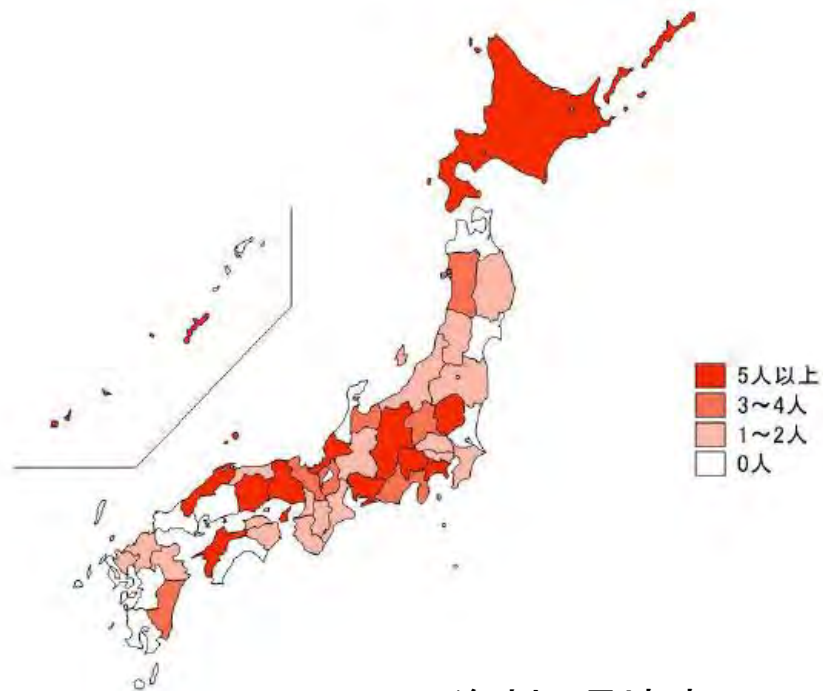


1都道府県あたり
3～4人

都道府県における専門職員の配置状況

専門的知見を有する職員を5人以上
配置している都道府県

都道府県名	人数
兵庫県	20 人
北海道	19 人
島根県	16 人
長野県	14 人
栃木県	9 人
愛知県、沖縄県	8 人
山梨県、岡山県、愛媛県	6 人
神奈川県、福井県	5 人



資料:環境省

市町村における専門職員配置数はさらに少ない！

鳥獣被害対策専門員に関する調査結果（福島県：平成28年度）

県内59市町村へアンケートを実施

Q: 専門職員の配置は必要か？

A: 専門職員の配置は、県全体の約72%が必要と回答

Q: 専門職員に期待する業務は？

A: 「被害状況の把握」「技術的支援」「被害防止計画の立案」の順に期待されている
各市町村の担当者は、専門性の高い業務の実施が難しい状況

Q: 専門職員を配置しない理由は？

A: 「財政的に困難」と「人材の確保が困難」が約80%を占めている



県内の多くの市町村が専門職員を必要と
考えている！！

鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援事業のイメージ

○現状・課題

- ・市町村から県に対して市町村専門職員の配置支援の要望。
- ・専門職員の募集については、大学や専門学校などと連携し、人材の確保を図っているが、全国的な需要の高まりから、人材が不足している。

○対策

- ・県として市町村専門職員や候補者となる人材の確保が必要であることから、人材の確保・育成やマッチングする体制を整備。

鳥獣被害対策市町村専門職員候補者の確保・育成

確保

- 大学・専門学校へアプローチ
- バスツアーの実施
(県外の人材+大学専門学校生対象)

就活イベントの開催・出展
(学生・社会人)

育成

- 専門職員の役割の明確化
- 体系的な人材育成体制の構築

- 地域の実情を把握
- 鳥獣被害対策の実践研修
・生息状況調査、被害調査方法等

候補者と市町村等とのマッチング

鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援

- 補助率・定額
1～2年目 2,000千円
(市町村等)

鳥獣被害対策市町村専門職員育成高度化研修

集合研修

- 地域の実情に応じた有効な対策の検討
- PDCAサイクルの実践
- 被害対策技術支援
(専門職員)



高度化研修

個別研修

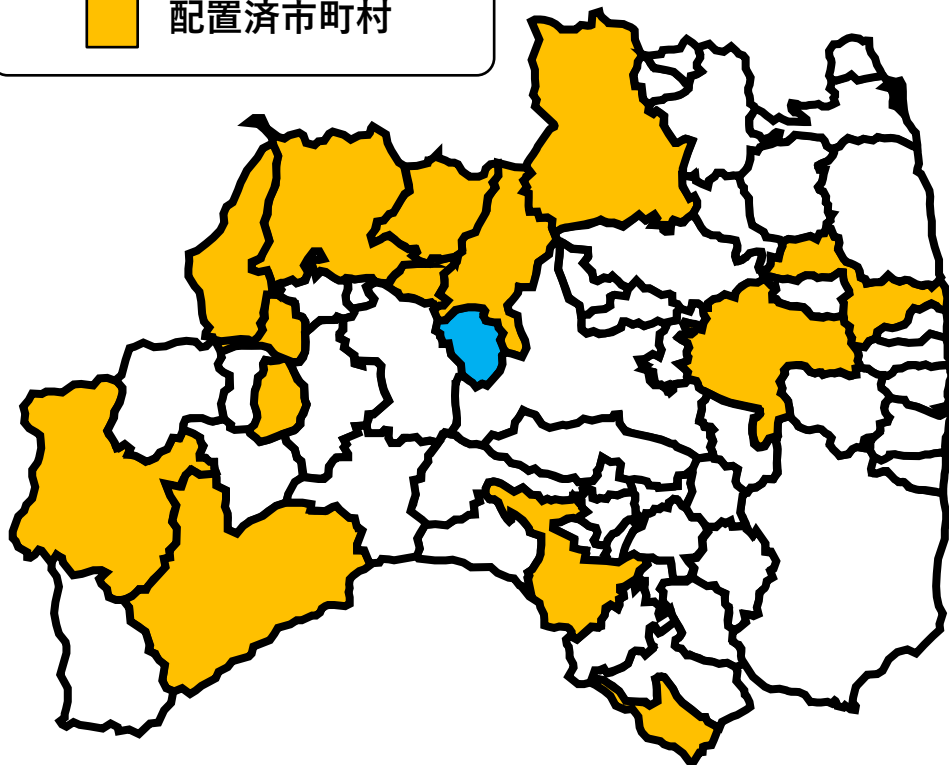
- 個別支援
- バックアップ体制の構築
(専門職員等)

有害鳥獣被害対策により農業・農村の活性化

鳥獣被害対策市町村専門職員の配置状況

鳥獣被害対策市町村専門職員とは？
 → 野生鳥獣に関する専門的な知識を有し、市町村等において鳥獣被害対策の中心的な役割を担う職員

 配置済市町村



令和2年度野生鳥獣による農作物被害金額
 県内合計 約1億9,839万円

<地方別内訳>

会津：約8,224万円 中通り：約1億1,166万円 浜通り：約449万円

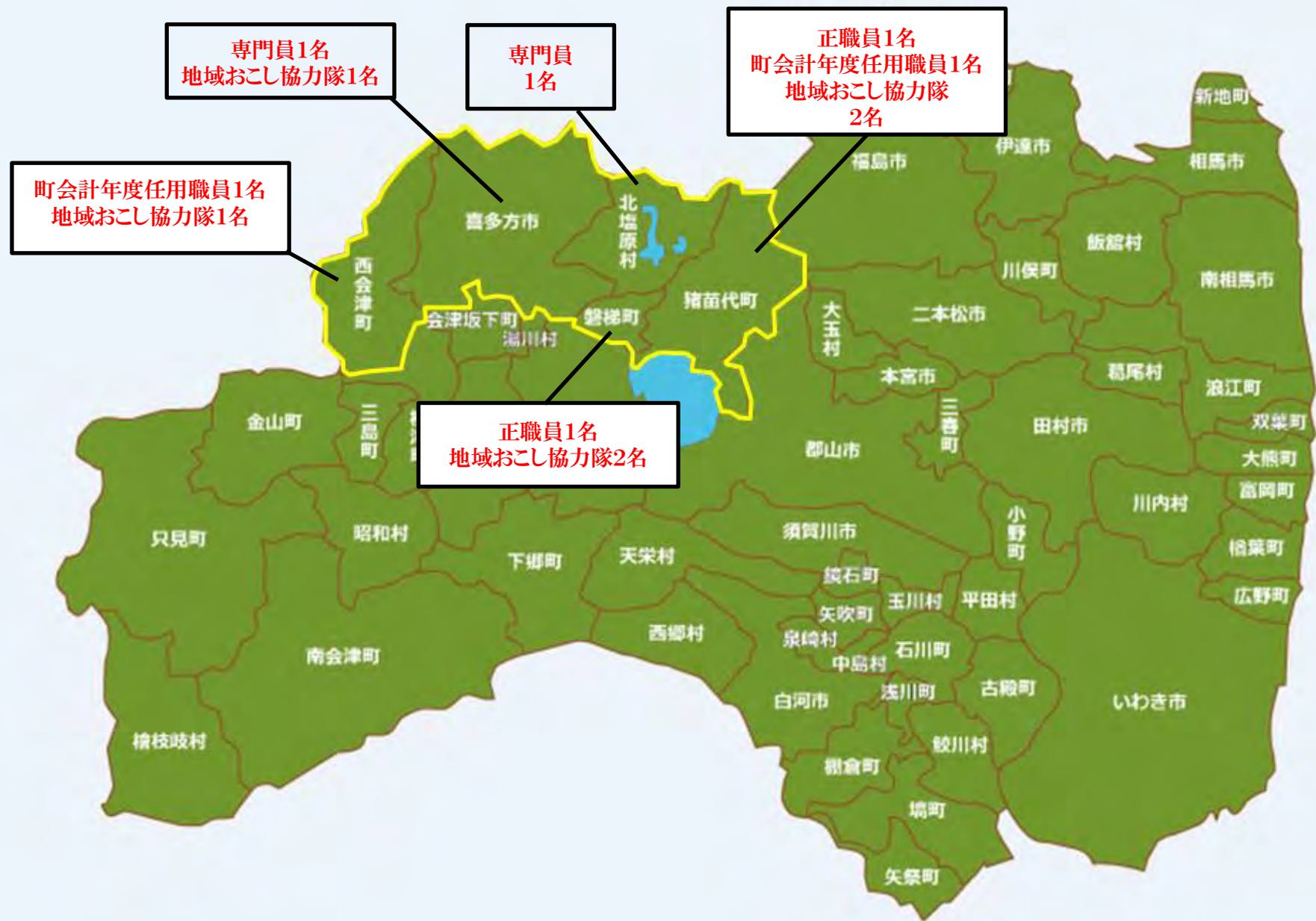
県事業活用市町村

地域	市町村名	人数
県北	福島市	1名
県中	田村市	2名
県南	白河市	1名
	矢祭町	1名
会津	喜多方市	2名
	磐梯町	1名
	北塩原村	1名
	西会津町	1名
	柳津町	1名
南会津	只見町	1名
	南会津町	1名
相双	浪江町	2名
合計		15名

※県事業活用による人数

市町村専門職員を中心とした効果的な農作物被害防止体制の構築

会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会 ☆近隣市町村との連携



5市町村による広域対策の取組み

-会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会-

当協議会は、会津北部地域の猪苗代町、磐梯町、北塩原村、喜多方市、西会津町の5市町村によって構成されており、ツキノワグマ、イノシシ、ニホンザルなどの中・大型の野生鳥獣による被害防止対策の充実・強化を図るとともに、各関係機関や構成市町村と連携の下、鳥獣被害の軽減を目的として、平成20年度に設立された協議会です。

5市町村が連携し担当者の情報共有を密に行うことによって、イノシシやクマ対策をはじめ、サルの群れ管理やシカの生息域調査などを効果的に行うことが可能となります。

また協議会では、国から交付金を受け、パトロールや生息調査のほか捕獲用の罠やおりの購入や、住民とのワークショップや研修会の開催など幅広い対策活動を行っており、近年ではICT機器の実証試験やドローンを用いた生息調査事業など、先進的な取り組みを多数実施しています。

喜多方市

(鳥獣被害対策専門員1名)

万年雪を頂く飯豊連峰の麓、広大な農地が平地と中間地域に広がる自然豊かな喜多方市で、専門員の活動を始めて5年目となりました。

農作物を守るための防護柵の設置技術の普及や対策の現場に即した支援制度の創設など、集落内・行政組織内それぞれに被害防止のための体制づくりを行っています。



被害対策とは「やれば被害を無くせる自分たちにも出来る」と住民の方々に実感してもらう事を理念に、積極的に地区住民と対話し、住民主体で行う被害対策にむけた雰囲気づくりに努めています。

北塩原村

(鳥獣被害対策専門員1名)

村内の農作物被害は主にイノシシ、サルによるものであり、専門員は住民からの相談を受け、対策の提案や柵設置のお手伝いをしています。他にも定点カメラの設置、捕獲の補助として現場で活躍しており、今年度からはサルの管理のために発信機の装着にも力を入れています。



また、裏磐梯エリアはクマの生息域のため、観光客への注意喚起として裏磐梯クマ出没マップをビジュアルセンサーと連携して公開しています。



西会津町

(鳥獣被害対策専門員2名)

西会津町は、平成30年度より鳥獣被害対策市町村専門職員育成支援事業を活用し、専門員を配置。

イノシシ被害の増加に合わせ、令和3年9月より地域おこし協力隊の1名を増員し、役場職員・猟友会と連携しながら対策を行っています。



磐梯町

(鳥獣被害対策専門員3名)

(協議会事務局担当)

磐梯町では、地域おこし協力隊の3名が鳥獣被害対策の専門職員として活動しており、それぞれ役割分担を行うことで、地域住民からの相談の対応や地域の状況にあった対策の提案・支援を行っています。



猪苗代町

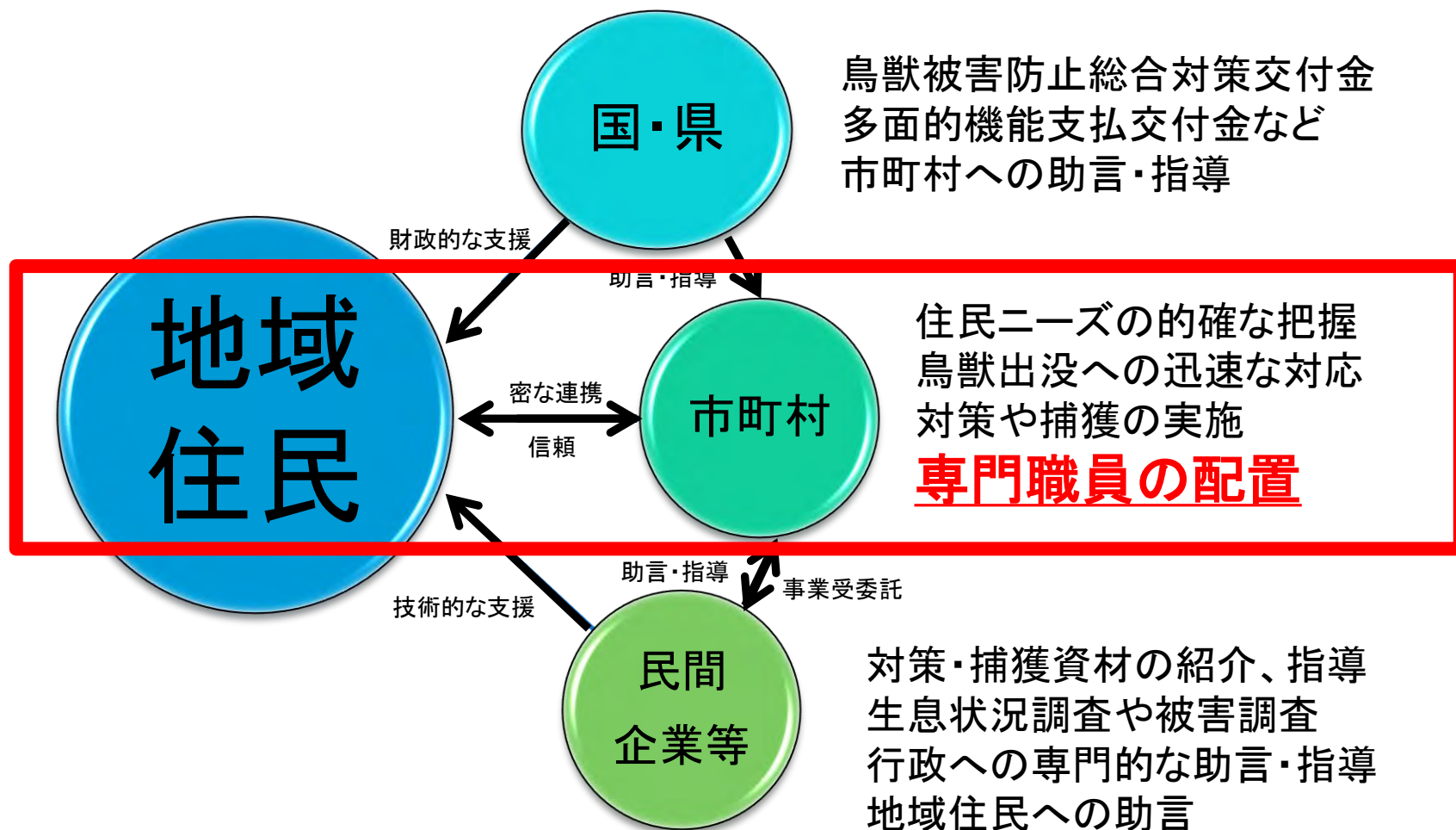
(鳥獣被害対策専門員4名)

平成22年度より専門員を配置し現在は地域おこし協力隊も含め4名で活動しています。

サルの群れのモニタリング調査やクマ・イノシシの被害対策、住民が実施する被害対策の普及啓発を行っています。



市町村の役割



A photograph of a Japanese macaque (snow monkey) sitting on a thick, dark tree branch. The monkey has white fur and a pinkish face. It is surrounded by a dense network of bare, light-colored tree branches. In the background, a hazy, green forested hillside is visible. A green speech bubble with a blue outline is positioned above the monkey, containing Japanese text.

ご清聴ありがとう
ございました